

〈要約〉

これからの交通シナリオに関する一考察

A Study concerning Traffic Scenario in the future

岡 本 久
Hisashi Okamoto

わが国の交通市場は、規制緩和等による運賃・料金体系等の多様化、交通事業者の新規参入等により年々競争が激しくなっている一方、長引く不況により交通需要は伸び悩んでいる状況にある。

交通市場外に目を向けると、少子高齢化が着実に進展し、今後わが国の人口は減少する見通しにある。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2046（平成 58）年に 1 億人を割りこみ、2050 年には 9,515 万人になるとしている。経済面では、第 2 次安倍内閣が掲げた金融政策・財政政策・成長戦略といった一連の経済政策によってデフレ経済の克服を図っている状況にあるが、今後の経済動向に関しては不透明と言わざるを得ない状況にある。また、近年では情報化（ICT）の進展により「いつでも、どこでも、誰とでも」コミュニケーションが可能となり、コミュニケーションのためのツールは多様化し、今後ますますこの傾向は強まるものと想定される。このため、交通と情報通信との補完的関係の更なる強化が期待されている。

交通分野に限らず、今後わが国の重要課題として環境問題が挙げられる。鳩山元首相は 2020 年までに温室効果ガスを 1990 年比 25% 削減する中期目標を世界に言明した。本目標の実現可能性についてはかなりハードルが高いと考えられるが、いずれにしても交通シナリオにおける環境問題は無視できない位置づけにある。

本論は、上記の交通市場を取り巻く種々の環境下の中でも、下記に述べる交通市場外の要因に着目し、それぞれに関する現状をまとめた上で、交通との関連を踏まえ、今後のわが国における交通シナリオ（未来像）についての私見を記述したものである。なお、本論では主として旅客交通市場を中心に論述した。

今後の交通シナリオを考える上で、本稿では交通市場に影響を与える経済・社会的要因として下記の 4 点を考えてみた。

1. 人口減少・少子高齢化社会の進行
2. わが国の経済状況と今後の方向性
3. 情報化社会の進展
4. 環境問題

以上の観点からのアプローチに基づき、関連データ（情報）の解析を行った上で、本論をまとめた。